

農地機構だより

～人と農地をつなぐ～ 第8号

(公財)しまね農業振興公社
(農地バンク)

2019年6月 発行

松江市黒田町432番地1

0852-20-2871



連携し合い ともに進む

現地レポート 大田市 有馬相談員



『大規模営農者の急なリタイア！！ チーム一丸となって耕作者を確保』

大田市で水稻17haを経営していた農業者Aさんが、今年2月、急に営農できない状況となり、緊急な対応を迫られました。そこで、農業委員、最適化推進委員を核とし、市、土地改良区、JA、公社相談員、地区内の担い手農業者が“チーム”を編成し、どう向かって行くのかという方針を定め、一丸となって取り組んだ結果、作付けに間に合うことができました。

農業委員：“これは農業委員と最適化推進委員が解決すべき問題！！”

【チームで考えた方針】

■Aさんが借り入れていた農地の地権者の意向確認を最優先に行う

理由：(地権者の多くは、農地が返ってくることに対して先行き不安な気持ちを抱いている)

■Aさんの自作地(10.5ha)とAさんが借り入れていた農地(6.5ha)については、できる限り、農地中間管理事業で対応する

■当該チームメンバーの判断で、受け手の仮配分を行う

■その他所有者所在不明農地については、情報把握に努める



【対応と担当】

- ・新たな耕作者の確保に係る調整… [農業委員、最適化推進委員、JA職員、公社相談員]
- ・担い手の現況耕作状況図面及び
借り受け後の農地状況図面作成 …… 市
- ・農地の集積・集約に係る話し合い… [農業委員、最適化推進委員、JA職員、担い手農業者、公社相談員]
- ・地権者への意向確認及び
不在所有者の所在と意向の確認… [農業委員、最適化推進委員、JA職員、公社相談員]

【取り組み】

3回の対策会議を行い、その都度進捗状況を確認し合いながら、情報共有を図った。

【結果】

- 受け手(10名)を確保し、できるだけまとまった形で借り受けができるように、市が作成した農地の状況図面をもとに調整を図った。
- 不在所有者を含む全ての関係所有者の承諾を得ることができた。

2ヶ月で達成！



今回の事例に対し、早期に耕作者確保ができた理由

「地域の農地は、自分たちで守る！！」という共通した強い思いがあったからこそ、農業委員、最適化推進委員を中心にチームが一丸となって積極的な活動を展開できた。

●急なことだったので、契約の詳細部分にまで決める余裕がなかった、ということから、日ごろから地域内の出し手、受け手、農地の状況、ほ場のリストなどが整備されていることが必要だと感じた。

今後の課題を考える
～次へつなげるために～
相談員の振り返り…



●担い手がいることで、前向きな取り組みがなされたが、他地域で同じような事案が生じた場合、同様な行動ができるかどうか不安に思う。

また、個人の大型農家が農地を多く持つリスクに対して、地域で危機管理ができるような仕組み作りをチームで対応していくことが大切。

●不在地主が増えてきている状況の中、地縁性の希薄化に伴う農地の放置傾向が高まっていくのではないかと不安があるが、不在地主と関係のある地域内の親類、縁者とのつながりを大切にしていくこと。



農業委員と最適化推進委員



ほ場

編集後記

ある朝、野鳥がやかましいので、窓を開けたところ、「雉」と目が合ってしまった。こちらも驚いたが向こうも驚いたらしく、けたたましい声を上げて茂みに逃げ込んだ。以前も宅地内での営巣を確認したし、どうも近年生息数を増やしているようだ。

昔、猟期には鳥撃ちの発射音を毎日聞いていたものだが、今ハンターで鳥を狙うものは皆無に等しく、皆猪狙いとなっている。それなら猪は減っているのかというと、担当地区でも年間八百頭を優に超える猪を捕獲しているものの、目に見えて減ったとの実感はない。地域の集まりで必ず出るのは猪たちを何とかしてくれとの悲鳴。

今、各自治体は駆除だけに頼らない地域一丸で取り組む複合対策への転換を進めているところだが、農地中間管理事業も有害鳥獣対策の一助になれば幸いだ。（ディスコース）

